

経営協議会学外委員からの提言への対応（平成 26 年度）

開催日	議 題	意 見	対応状況等
第 2 回 26. 6. 25	宇都宮大学の大学改革（新学部 の設置構想）について	<p>○政府においても地域活性化に力を入れているので是非進めるようにしてもらいたい。</p> <p>○意欲的で素晴らしいことである。県内の関係機関との協力を得て進めてもらいたい。</p> <p>○学生のモデルキャリアパスについては、しっかりと考えていただきたい。</p> <p>○地域の課題を如何に把握するか、そのためには地方行政とか地域の企業に密着して課題を把握することも必要である。</p>	<p>○新学部設置構想については、「地域の持続的な発展に関する教育・研究・地域貢献を推進することによって、豊かな生活の実現に貢献する」を理念としており、これに当たっては、県内の自治体、経済界及び高等学校から要望を受けたもので、関係機関と協力して進めることとしている。</p> <p>○新学部は3学科構成としており、コミュニティデザイン学科は社会科学系で県、市の行政職を想定しており、従来の能力に加えて、理系の能力を備えた人材を考えている。また、他の2学科については、建築、土木をベースとしているが、単なるハード面だけでなく、社会科学の基礎知識や住民とのコミュニケーション能力を備えた人材を育て供給することとしている。</p> <p>○地方自治体へのインターンシップなどにより、1年次から課題意識を持つようなプログラムを考えている。</p>
第 3 回 26. 12. 15	宇都宮大学の大学改革（新学部 の設置構想）について	<p>○新学部は地域密着型の構想であるから、地元の企業や農家等へ積極的に学生を送り込んでいただきたい。実際には、現場で地域の実態を知り、問題をどう取り上げ、解決していくかが重要になる。このような力を養える科目があればユニークなものになる。</p>	<p>○新学部に共通するターゲットとして、「地域対応力」を掲げており、地域としっかり向き合い、今何が起こっていて何が課題であるかを見極め、しっかり現場に入っていくことなどに加えて調査分析能力を養うことである。現在、これらについてカリキュラムを分かりやすい形で整理しているところである。</p>
	宇都宮大学の教育研究活動等 への取組について	<p>○基盤教育センターの教育活動に関し、教養教育で重要になるのは人間力を教えることである。人間力をつけたうえで社会に送り出すためには、家庭教育では十分でないのが実情であるので、その点に力を入れた取組をお願いしたい。</p>	<p>○今まで多くの教養科目は教室での座学が多かったが、それでは不十分であると強く認識し、アクティブラーニング、或いは能力指標を測った上で人間力を培う教養教育に向けて取り組んでいる。今回いただいた意見を踏まえ、さらに取組を強化する。</p>

<p>第 3 回</p> <p>26. 12. 15</p>	<p>宇都宮大学の教育研究活動等への取組について</p>	<p>○教職大学院は実務を重んずるということであるが、教える側のスタッフに座学だけで教育をしている教員が含まれていては好ましくないのではないか。</p>	<p>○指導体制については、日頃から現場で授業に精通している実務家教員を揃えている。</p>
		<p>○工学研究科では、先端光工学専攻を設置し、目玉にするということであるが、具体的な「売り」は何か。光の分野は幅が広い。</p>	<p>○光学薄膜関係で成功事例があるので、これを足がかりに、見える形で産業界との事業を進めていきたい。</p>
<p>第 4 回</p> <p>27. 2. 3</p>	<p>宇都宮大学の教育研究活動等への取組について</p>	<p>○オプティクス教育研究センターの研究活動に関し、光をエネルギーとして使う内容がなかったが、この当たりの研究はどうなのか。 また、県内にも半導体や電子部品関連の企業は多い。地元企業にも貢献していただきたい。</p> <p>○Project iChiGo について、梱包を見るかぎりコストがかかっているのではないか。糖度はロボットで計測できるのか。 また、販売、提携を考えると、これを機にベンチャーを起せば良いのではないか。</p>	<p>○光は情報媒体としてだけでなく、エネルギーの塊として利用し、レーザー加工に応用する技術開発を行っている。内部加工やナノ修飾加工、超微細穴加工、剥離加工などである。オプティクス教育研究センターの戦略は地域と世界にある。地域貢献を通じて地域と世界を結ぶ戦略を進めたい。</p> <p>○コストを抑えることも考え、ロボット化している。糖度については、赤外線を照射する方法が有効であると分かっているので、可能になる見込みである。ベンチャーについては、既に立ち上げており、事業を展開している。</p>
<p>第 5 回</p> <p>27. 3. 25</p>	<p>宇都宮大学リスク管理規程の制定について</p>	<p>○新生を迎えるに当たり、学生のリスクに関し、飲酒による事故がないようにしてもらいたい。</p>	<p>○学生のサークルに関しては、研修会やDVDによる啓蒙を行った。また、サークルの認定に当たっては、誓約書的な文言を加え、更に年間の活動計画を提出させきめ細かい生活指導を行っている。 一般の学生に対しては、研修会の実施に加え、飲酒抑制の缶バッジを作成し、オリエンテーションで配布することとしている。サークルには既に配布済みである。</p>